

【教育長賞】届け！ぼくの想い

安城中部小学校 下山 涼太

ついに、今日もこの時間がやってきました。

「じゃーんけーんぽーん！」

「よっしゃ、勝った！今日は最高だ！」

給食の時間は、学校生活の中でぼくのとても楽しみ時間です。じゃんけんに勝ち、大好きなおかずのおかわり権が決まると、とても最高の気分になります。

振り返ると、ぼくは、給食を食べるようになってもう九年。今まで、給食について深く考えることもなく、当然のように食べてきました。ある道徳の授業を通して、世界には食糧不足や経済的な理由から満足に食糧を食べることができない国もあることを知り、そういった国の人々に対して申し訳ない気持ちになりました。家でも学校でも、毎日不自由なくおいしいごはんをおなかいっぱい食べるのができるのは、決して当たり前のことではないと学んだからです。それからのぼくは、ごはんを食べるときに、感謝の気持ちを忘れないよう心がけています。

そんなぼくにも、苦手な食材がいくつもあります。小さいころのぼくは、苦手なものが出ると必ず残してしまいました。でも今は、少し無理をしても完食するようにしています。ごはんを食べられるのは、ありがたいことだと思われ、そこには必ず作ってくれる人たちの存在があるからです。以前、家庭科の授業で、簡単な調理実習をしたことがありました。たった一つのメニューを作るだけでも、洗って切っ

たり、焼いて盛りつけたり、たくさんの細かい工程がありました。栄養バランスを工夫するのも難しかったのです。まともに調理をするのは初めてだったので、慣れないことをして、ようやく食べるころにはへトへトになり、食事を用意する大変さがほんの少しだけ分かった気がしました。だからぼくは、毎日一生懸命に給食を作ってくれている人たちに、感謝の気持ちでいっぱいです。大変な思いをして作ってもらった給食だから、残さず食べることで、その気持ち伝わると思います。

コロナ禍が落ち着いてきた今年、ぼくたちの給食の時間にもうれしい影響がありました。ここ数年で、ぼくは、黙食にすっかり慣れたつもりでしたが、やはり友達と食べる給食は格別です。小学校生活最後となる一年、これまで共に学んできた大切な友達とテーブルを囲んで、楽しくおしゃべりしながら給食を食べられることが、とてもうれしいです。

栄養満点で幸福度ナンバーワンの給食と、その提供に協力し、いつもぼくたちの元気と笑顔を守ってくれているすべての人たちに感謝の気持ちを込めて、今日もぼくは給食を喜んでおかわりします。そして、元気いっぱい大きな声で伝えたいです。

「ごちそうさまでした！」